

# 令和4年度 徳島県立城東高等学校 学校評価 総括評価表

## 本年度の具体的目標

### ① 人権教育の充実

ア 人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する イ 自他を大切にする心や態度を育成する ウ 家庭への啓発活動を推進する エ 学校の教育活動全体を通じて道徳教育を展開する

### ② 学習指導の充実

ア 学習意欲を引き出す指導体制・指導方法の工夫・改善を図る イ 探究活動をとおして主体的に学習に取り組む態度の育成を図る  
ウ 新学習指導要領の趣旨に即した授業改善を図る エ I C Tを積極的に活用した個別最適な学習、協働的な学習を推進する

### ③ 進路指導の充実

ア 企業研修等を通じて生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる  
イ 生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細やかな指導を充実させる  
ウ 進路実現のために必要な情報を迅速かつ的確に収集し、組織的・計画的な指導を行う

### ④ 生徒指導の充実

ア 社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的生活習慣の確立を図る イ 良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える  
ウ 生徒との信頼関係を確立し、家庭との連携を図り、個に応じた生徒指導を展開する

### ⑤ 特別活動の推進

ア ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する イ 部活動を充実させる  
ウ ボランティア活動の機会を取り入れ、豊かな人間性を育てる

### ⑥ 健康教育の推進

ア 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達を促進を図る イ 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る  
ウ 教育相談活動の一層の充実を図る

### ⑦ 環境教育・安全教育の推進

ア 環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る イ 校内外の環境美化活動を推進する ウ 防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する

### ⑧ 主権者教育・消費者教育の推進

ア 政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る  
イ 成年年齢の引き下げに対応し、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する ウ 持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する

### ⑨ 読書活動の推進

ア 生徒の望ましい読書習慣の形成を図る イ 生徒の自主的な読書活動を推進する

### ⑩ グローバルな活動につながる教育の推進

ア 異文化理解学習を通じて、国際協調の精神の涵養を図る イ 国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る

### ⑪ 開かれた学校づくりの推進

ア 教育活動の積極的な公開を推進する イ ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する  
ウ 学校運営協議会等を利用し、地域社会、P T A、同窓会との連携を図る

### ⑫ 持続可能で信頼される学校づくりの推進

ア 校務運営体制の効率化と充実を図る イ 教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る ウ 校内外の研修を通じて指導力の向上を図る

## 1 人権教育の充実

重点目標	評価指標（活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①人権尊重を柱にすえた教育活動を推進する。 ②自他を大切にすする心や態度を育成する。 ③家庭への啓発活動を推進する。	<b>評価指標</b> ① 人権尊重の精神が息づく学校の雰囲気ができていると生徒が回答した割合 80%以上 ② 主体的に人権の学習ができたとする生徒の割合 80%以上 ③ 生徒に人権意識向上のための指導が適切だと回答した保護者の割合 90%以上	① 92.4% ② 92.4% ③ 90.1%	A A A	(評定) A	人権問題に関する作文などを見てみると、ジェンダー平等やセクシャルマイノリティ、外国人や同和問題などの様々な人権課題を、自分事と捉える、あるいは捉えようとしている生徒が大半であることがうかがえた。今後は、これらの生徒の内的成長を、表現し、共有できるような場を、恒常的に提供し、人権学習が遍在する学校活動を目指したい。
	<b>活動計画</b> ① ・「人権週間」年3回以上実施する。 ・「人権講演会」など年1回以上実施する。 ・「校内意見発表会」年1回以上実施する。 ・その他、適切な啓発行事を実施する。 ② ・「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は3回）実施する。 ・「人権職員研修会」年3回実施する。 ③ ・「人権新聞」年3回以上保護者に送付する。	<b>活動計画の実施状況</b> ① ・「人権週間」年3回実施 ・「人権講演会」年2回実施 ・「校内意見発表会」年1回実施 ② ・「人権問題ホームルーム活動」年4回（3年は2回）実施 ・「人権職員研修会」（全体）年3回実施 ③ ・「人権新聞」ならびに人権教育課からのお知らせを合計年3回発行。生徒を通じて保護者閲覧。（以上予定を含む）	(所見) 人権講演会や校内意見発表会などの充実を通して、生徒の人権尊重の精神の涵養につなげることができた。 また、集会などで、できるだけ人権教育課から生徒に直接語りかけることで、恒常的に人権問題を自分事と捉えるよう働きかけることができた。	学校関係者の意見 引き続き、ジェンダー平等やいじめ、同和問題など、様々な人権問題を自分事とする恒常的な教育活動をお願いしたい。また、グローバルな視点から日本の人権問題について学習することもお願いしたい。	

## 2 学習指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。 ②新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を図る。	<b>評価指標</b> ① 生徒の学習時間（1日あたり）3時間を超える生徒の割合 70%以上 ② 令和5年度の教育課程を編成する。	① 生徒52% ② 新学習指導要領の趣旨を踏まえた令和5年度入学生用新教育課程を編成した。	C B	(評定) B	学習時間の調査方法を紙媒体から学習支援クラウドサービスに変更し、丸1年経過したが、未だ全員が完全に入力できる状況に至っていない。引き続き、学習時間把握の意義を個々の生徒にしっかりと理解させることで、入力の定着を図っていききたい。 観点別評価については、実施1年目であり、課題が少しずつ見えてきたところである。次年度に向け、課題を整理し、より適切な評価に努めていく。
	<b>活動計画</b> ① ・家庭学習時間調査を学習支援クラウドサービスを活用し、毎日実施する。 ・月ごとに学習計画を立てるように習慣づける。 ・生徒1人1台タブレット端末を活用した授業支援・学習支援クラウドサービスの有効的利用を推進し、主体的に学ぶ力を身につけさせる。 ②-1 新学習指導要領の趣旨に即した評価方法を確立させる。 ②-2 授業参観や職員研修を通して、評価を授業改善に繋げる取組を行う。	<b>活動計画の実施状況</b> ① ・学習時間調査を毎日実施した。 ・タブレットの機能を用いて授業での疑問点に個々に対応したり、また、総合的な探究の時間では、課題や発表原稿を校内グループ機能を利用して、生徒グループ間と担当教員の間での共有を行い、添削指導に利用している。 ②-1 3観点を踏まえた指導案の検討およびテスト時の観点別配点を作成した。 ②-2 6・11月に相互参観授業を実施したり、教科会等で研修した。	(所見) 平均学習時間は3.1時間であるが、平均学習時間3時間を超える生徒をもっと増やしたい。調査方法として学習支援クラウドサービスを利用しており、担任と生徒が毎日コメントを交換するなど、コミュニケーションをとる有効な手段となっている。 観点別評価については、評価の妥当性に関する振り返りと検討が必要である。	学校関係者の意見 学習時間や学習意欲、その成果に関するデータ分析を進め、教育活動に生かしていただきたい。タブレット端末を活用した学習活動が一層推進されることを期待する。	

### 3 進路指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒一人一人の勤労観・職業観の育成を図るとともに、夢や目標を明確にさせる。 ②生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じたきめ細かな指導を充実させる。	<b>評価指標</b> ① 総合的な探究の時間『クエスト』の有用度 80%以上 ② 東京大、京都大 合格者数 10名以上 ・医学部医学科 合格者数 10名以上 ・難関10大学 合格者数 40名以上 ・校外模試偏差値70以上 40名以上 偏差値60以上 130名以上	<b>評価指標による達成度</b> ①生徒 81.1% 保護者 88.7% ②東京大、京都大 合格者数 3名 (既卒1名含む) 医学部医学科 合格者数 8名 難関10大学 合格者数 28名 (既卒1名含む) 令和5年3月24日現在 校外模試偏差値70以上 58名(2年)36名(1年) 偏差値60以上 161名(2年)132名(1年)	A B	(評定) B	『クエスト』の取り組みを通して、生徒のキャリア形成の充実を一層図る必要がある。また、外部コンテストへの参加をさらに促し、地域活性化に貢献する人材育成につなげていきたい。 より多くの生徒が、自ら学習を進めるための動機となるような、講演会や講座を引き続き考えていく必要がある。そのためにも東京大学金曜講座やWWLコンソーシアムのオンライン講座により、多くの生徒が参加するような仕掛けを考えていきたい。
	<b>活動計画</b> ① 外部講師を招いた総合的な探究の時間『クエスト』を1,2学年で2回以上実施する。 ② 徳島大学等の体験授業や物理チャレンジなど各種コンテストへの参加を推奨する。 ・東京大学金曜講座の生徒への周知を行い、参加を推奨する。 ・進路検討会を3学年で年4回実施する。 ・難関大希望者対象模試を各学年2回以上実施する。 ・模試分析会を1,2学年で3回実施する。 ・学力テストの講評を全学年で延べ11回配布する。	<b>活動計画の実施状況</b> ① 1,2学年で外部講師を招いた総合的な探究の時間を6回実施 ② 徳島未来創造・アップデートコンテストに3年生1組(4名)が本選出場し特別賞を受賞 東京大学金曜講座26回実施 WWLコンソーシアム オンライン講座18回実施 進路検討会3学年で4回実施 模試分析会1,2学年で3回実施 難関大希望者対象模試を各学年で3回実施 学力テストの講評を全学年で延べ11回配布	(所見) 80%以上の生徒が、総合的な探究の時間に達成感を持っていることが分かる。2年生の『クエスト』班で、とくしま創生アワードに応募した。 生徒向けの講演会や分析会・検討会は予定通り実施できた。各種コンテストに応募するなど興味関心を持つ分野を見つけれられた生徒は一定数いるものの、そうでない生徒もいる。		

### 4 生徒指導の充実

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と 今後の改善方策
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①社会の一員としての正しいルール・マナーを習得させ、基本的な生活習慣の確立を図る。 ②良好な対人関係を構築できる社会性を育み、いじめを未然に防止する態勢を整える。	<b>評価指標</b> ①-1 服装・頭髪が守れている割合 95%以上 ①-2 挨拶が身につけている割合 85%以上 ①-3 ルール・マナーを守っている割合 90%以上 ② いじめを未然に防止するための積極的な取組み (面接・アンケート 2回)	<b>評価指標による達成度</b> ①-1 生徒 91.9% ①-2 生徒 85.9% ①-3 生徒 93.4% ② アンケート2回(10月・2月)	C B A B	(評定) B	服装・頭髪については、生徒会からの呼びかけや、相互チェック等を継続し、定期的に服装頭髪指導を計画する。 生活委員による駐輪マナーアップ・挨拶運動等を継続する。朝夕の挨拶だけでなく、休み時間等の挨拶も自然に行えるよう、教員からも働きかける。 学校内でのマナーアップ運動も新型コロナウイルス感染症の状況を見て行う。 携帯電話・スマートフォン利用・薬物乱用防止教室・交通安全教室等の講演会も継続して行いたい。
	<b>活動計画</b>	<b>活動計画の実施状況</b>	(所見)	学校関係者の意見	

	<p>①-1 各学年での服装・頭髪指導を充実させる。(年3回)</p> <p>①-2 生活委員による挨拶運動、駐輪場のマナーアップ運動を各学期それぞれ1回実施する。</p> <p>①-3 交通マナーアップ運動、携帯電話・スマートフォン講演会、薬物乱用防止教室等を通じて、全校生徒に社会のルールを守ることやマナー指導を行う。</p> <p>② クラス分析会を定期的に行い、生徒の状況等について情報交換を行う。アンケートを活用し、生徒の状況把握をする。重要な対策等が必要なときは、いじめ防止等対策委員会を開き協議を行う。</p>	<p>①-1 各クラスで担任・副担任で行った。(年2回)</p> <p>①-2 各学期に生活委員が駐輪場のマナーアップ運動を行った。</p> <p>①-3 薬物乱用防止教室(7月)、携帯電話・スマートフォンの利用について(5月)の講演会を行った。</p> <p>② 学年毎にクラス分析会を行い、生徒の情報共有が行われた。いじめ防止対策委員会は、該当する案件がなかった。</p>	<p>服装・頭髪についての達成度は、生徒のみ95%に達成しなかった。制服を着崩して着用している者が、多く見られた。</p> <p>挨拶については、生徒のみ目標に達した。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、警察と連携してのマナーアップ運動はできなかった。</p> <p>携帯電話・スマートフォンの利用については、生活の改善が見られた。</p> <p>学校生活についてのアンケートを、9月・2月に行った。面接週間等を利用し担任とのコミュニケーションがとれるようにした。</p>	<p>駐輪場でのマナーアップ運動など、生徒の主体的活動が評価できる。適正な校則の運用・見直しについても、今後検討を続けて欲しい。その際、校則は、より良い社会を構築する市民として必要な倫理観、利他性の育成するものという視点から検討をしていただきたい。</p>
--	--	--	--	--

## 5 特別活動の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
<p>① ホームルーム活動・生徒会活動を活性化させ、自主性や実践的な態度を育成する。</p> <p>② 部活動を充実させる。</p>	<p>評価指標</p> <p>① 生徒会活動が活発である割合 90%以上</p> <p>② 部活動の充実度 85%以上</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>①生徒 94.3%</p> <p>②生徒 81.7%</p>	<p>評価</p> <p>A</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>A</p>	<p>with コロナの考えに立ち、感染対策に細心の注意を払いながら、様々な学校行事や部活動をできる限り通常どおりの形で実施できるようにしていきたい。</p>
	<p>活動計画</p> <p>① ・生徒会活動や学校行事への積極的参加を促す。 ・朝の挨拶運動を始め、生徒会による学校の活性化を図る。</p> <p>② ・部活動と学習面との両立を図る。 ・短時間で効率のよい活動を心がけ、各々の目標の達成を目指す。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① ・生徒総会で採決された議案について、生徒会が各担当教員と積極的に協議を行い、議案の実現に向け奔走した。</p> <p>② ・20時完全下校の遵守、定期考査期間の部活動自粛等メリハリの効いた活動を心がけた。部活動の充実に関しては評価指標を昨年度より5%アップしたこともあり、達成できなかった。</p>	<p>(所見)</p> <p>本年度も新型コロナの感染対策に細心の注意を払いつつ、生徒会諸活動の見える化に取り組んだ。</p> <p>部活動活動方針の遵守やコロナによる活動時間の制約もあり、短時間集中型の活動を行うことができた。</p>	<p>学校関係者の意見</p> <p>コロナによる制限がある中で、生徒会活動や部活動において素晴らしい成果を残している。部活動の充実度を測る指標について再考してみたい。</p>	

## 6 健康教育の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
<p>① 正しい食生活等の健康増進についての指導を行い、心身の調和的発達の促進を図る。</p> <p>② 一人一人に応じた特別支援教育の推進を図る。</p> <p>③ 教育相談活動の一層の充実を図る。</p>	<p>評価指標</p> <p>① ・「保健だより」の発行回数 12回以上</p> <p>・保健室の生徒への応急処置や心の悩み等への対応の良好の割合 80%以上</p> <p>② ・特別支援教育に関する職員研修会に対するアンケートの満足度 90%以上</p> <p>③ ・親身になって生徒の悩みや相談に応じてくれる割合 85%以上</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① ・13回</p> <p>・生徒 96.8%</p> <p>② ・教職員 98.3%</p> <p>③ ・生徒 94.0%</p>	<p>評価</p> <p>A</p> <p>B</p> <p>B</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定)</p> <p>B</p>	<p>「保健だより」や保健委員の活動をとおして、生徒の健康に対する意識を向上させる取組を継続していきたい。生徒が感じる様々なストレスに対して、しなやかに対応できる心の健康を高めることができるよう、予防教育に取り組んでいきたい</p>
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>	<p>(所見)</p>		

	<p>① ・保健委員会での生徒の自主的活動を推進する。 ・文化祭での展示等により、健康増進への啓発を図る。 ・各教科・各課と連携し、食育啓発を図る。 ・「保健だより」を12回以上発行し、健康増進について興味・関心を深める。</p> <p>② ・特別支援教育に関する職員研修会を1回実施する。 ・各学年会を利用して、気になる生徒についての情報交換を定期的に行い、心身や生活面、学業などについて悩みや問題を抱えている生徒を早期に発見し、支援を行う。</p> <p>③ ・カウンセラーや専門機関と連携した教育相談活動を充実する。</p>	<p>① ・保健委員は、手洗い石けん液やアルコール消毒液の点検・補充、車いすやAEDの点検、生理用品の配置・補充などを行った。 ・文化祭では、保健委員が中心となり、「カフェインの摂取」・「水分補給におすすめの飲み物」について調べ、掲示物を作成し、生徒への啓発を行った。 ・「保健だより」は13回発行した。</p> <p>② ・校内研修会を1学期に1回実施した。 ・学年会での情報交換に加えて保健室やスクールカウンセラーとの連携により、生徒への早期の対応支援を行った。</p> <p>③ ・教育相談の利用状況は、開設日が22日である（1月13日現在）。</p>	<p>保健委員は当番制で定期的に活動し、決められた仕事を責任を持ってこなすことができた。文化祭の展示など積極的に参加できた。 保健室の対応では、新型コロナ対応のため相談室や応接室を第二保健室として機能させ、感染症対策に取り組んだ。 スクールカウンセラーに定期的に教育相談を行っていただき、専門的な支援を必要とする生徒・保護者・教職員に支援ができた。担任との連携で、早期の対応ができたケースもある。 教員の校内研修では生徒のこころの育ちを支える予防教育について実施した。生徒の健やかな学校生活の継続に必要な内容であり、高い満足度を得ることができた。</p>	<p style="text-align: center;">学校関係者の意見</p> <p>コロナ禍で保健室に対して多様な機能が求められているが、その要請に十分応えられている。特に、予防教育の取組が素晴らしい。今後とも、生徒と先生、スクールカウンセラーの連携を密にして、心のケアの充実を図っていただきたい。</p>
--	---	---	---	--

## 7 環境教育・安全教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価		次年度への課題と今後の改善方策	
	評価指標	評価指標による達成度	評定	総合評価	
<p>①環境問題への意識高揚と環境学習の推進を図る。 ②防災教育を推進し、災害時の実践力を育成する。</p>	<p>① 換気や環境美化活動に積極的に取り組んでいる割合 80%以上</p> <p>②-1 防災訓練の実施回数 2回</p> <p>②-2 心肺蘇生法の技術を習得する</p>	<p>① 84.8%</p> <p>②-1 5月と10月に防災訓練を実施した</p> <p>②-2 1年生および教職員を対象に心肺蘇生法の講習会を実施した</p>	<p>B</p> <p>A A</p>	<p>(評定)</p> <p>B</p> <p>アンケート結果では「環境美化」「清掃活動」ともに8割以上が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組むたい。 今年も各地で異常気象による災害が起きた。地震だけでなく河川の氾濫や豪雨災害への対策などあらゆる防災への備えを、できることから地道に行っていく必要がある。</p>	
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見)		
	<p>① 換気や節電・節水を呼びかけ、定期的に環境委員による校内美化活動を実施する。</p> <p>②-1 防災訓練の実施においては、避難経路及び関係教員の役割の確認を行う。</p> <p>②-2 教員・生徒への心肺蘇生法の講習会をそれぞれ1回以上実施する。</p>	<p>① 環境委員による清掃奉仕活動を12月までに2回実施、3学期に2回実施</p> <p>②-1 5月に火災を想定した訓練、10月に地震津波停電を想定した訓練を実施</p> <p>②-2 1年生および教職員を対象にした講習会を7月に実施</p>	<p>生徒対象のアンケートでは、「環境美化」「清掃活動」ともに約8割が取組に達成感を持っている。引き続き清掃への意識向上に取り組むたい。 清掃奉仕活動は、機会を設け定期的に行った。 避難訓練は基本的避難行動の再確認として行った。 火災避難訓練では昨年度より早く避難完了することができた。地震津波停電訓練</p>		<p style="text-align: center;">学校関係者の意見</p> <p>地域の清掃奉仕活動が継続されており、生徒の公共心の育成に貢献していると評価できる。防災教育については基本的な避難訓練はできているので、備蓄品の充実や帰宅困難時の対応など、より細かい準備を進めていただきたい。</p>

は3年ぶりに全校生徒が体育館への避難を行った。今回生じた課題点を今後の活動に生かしていきたい。

## 8 主権者教育・消費者教育の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①政治や選挙への関心を高め、有権者として必要な政治的素養の育成を図る。 ②成年年齢の引き下げに伴う消費者トラブルの防止につなげることを目的に、消費者被害等の危機を自ら回避できる能力を育成する。 ③持続可能な社会の実現に寄与する消費生活を実践できる能力を育成する。	①-1 公民科の学習内容に興味・関心の高い生徒の割合 70%以上 ①-2 新聞を読む習慣のない生徒 30%以下 ② 「契約トラブルと消費者保護制度について理解できた」と回答した生徒の割合 80%以上 ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことができた」と回答した生徒の割合 80%以上	①-1 公民科の学習内容に興味関心のある生徒は95.7%で、昨年より23.2ポイント上昇した。 ①-2 3年生政治経済選択者を対象にした調査では、新聞を読む習慣のない生徒は、49.4%だった。 ② 「契約トラブルと消費者保護制度についてまあまあ理解できた、理解できた」と回答した生徒の割合 96.1%(2年生対象) ③ 「持続可能な社会のあり方について考え、実際に行動に移すことがまあまあできた、できた」と回答した生徒の割合 84.4%(2年生対象)	A   C  A  B	(評定)	B	公民科への関心が4年連続で上昇し、国政選挙でも積極的な投票行動が見受けられた。一方ネットニュースの発達と新聞の購読者の減少から高校生の新聞離れが著しく、年度当初78.6%の生徒が「新聞を読む習慣がない」と回答している。授業で新聞を扱うなどして習慣が無かった生徒の37.1%に読む習慣がついたが、依然多くの生徒に習慣がないので、既存の取り組みを更に充実発展させていく必要がある。 2年次に講演会を持つのは知識の定着のために有効であったので続けたい。エシカルな消費行動については家庭クラブ等が行う「エシカル消費」に関する活動を広報し、多くの生徒の参加を呼びかけたい。
	①-1 公民科の授業をとおして、選挙制度とその意義について十分に理解を深め、主権者として持つべき意識について理解させる。 ①-2 新聞発表をとおして、社会に関心を持ち、自らの意見を他者に伝える力をつける。 ② 2学年を対象に外部講師による講演を行う。 ③ 「エシカル消費」について学習し、持続可能な社会の実現のための実践力を身につける。	① 「政治経済」の授業で受講者全員に新聞を使った発表をさせ、社会問題への関心を高めた。クエストの時間に新聞の読み方や社会問題に関する講演を聞き、テーマを決めて研究することで、知識を深めた。 ② 弁護士による「成年年齢の引き下げ」に伴う消費者の自立と責任についての講演会を2年生対象に行った。 ③ 探究活動や家庭科等で「エシカル消費」について学習した。	(所見) 新聞を使った発表を通じて新聞を読む習慣のない生徒の37.1%に読む習慣をつけることができた。昨年の参議院議員選挙においても投票率が全国18歳の投票率より52.2ポイント高かった。 消費者教育については2学年で消費者の自立と責任について外部講師の講演を行うことで、1年次の家庭科で学習した内容が定着した。「エシカル消費」についても定着の機会を探りたい。	学校関係者の意見  国政選挙における高い投票率が評価できる。今後も、政治や選挙に対する関心を高め、持続可能な社会の実現に寄与できる人材の育成をしていただきたい。また、社会的課題の解決に向かい、知識の修得にとどまることなく、体験や議論を重ねる学習環境を整えるのはいかがか。		

## 9 読書活動の推進

重点目標	評価指標（と活動計画）		評価			次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①生徒の望ましい読書習慣	①-1 読書活動に学校として積極的に取り組ん	①-1 生徒 77.7%	A	(評定)	生徒の視野が広がるよう「ライブラ	

の形成を図る。	でいる割合 70%以上 ①-2 生徒一人あたりの年間図書貸出数 (令和4年1月～12月) 5.5冊以上	保護者 85.9% 教職員 94.8% ①-2 5.72冊	A	A	リニューース」で多様なジャンルの本を紹介し、ホームページで広報することができた。一方、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、従来の読書会の開催形態の見直しが必要となっている。ICTを効果的に使い、校内の安全を図るだけでなく、校外との交流なども視野にあり方を検討したい。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 読書活動に関するアンケートは、生徒の数が4.4ポイント上がり、目標を達成できた。1人あたりの貸出冊数は目標を若干超えた。読書会や読書週間など行事として定着し、教科学習の中でも図書館の利用が進められている。		学校関係者の意見
	①-1 ・読書週間やビブリオバトルを1・2学期に実施する。 ・学校ホームページに図書館情報を掲載する。 ・「ライブラリーニュース」を毎月発行する。 ①-2 読書会を1・2学期に実施する。	①-1 1学期にビブリオバトル(7/14)1・2学期に読書週間(4/19~22, 10/17~21)を実施した。ライブラリーニュースを毎月発行し、図書関係の行事とともに学校ホームページに掲載した。 ①-2 哲学カフェを計画していたが、感染症対策のため中止した。			読書の冊数増とともに、哲学カフェなどでの他者との議論を通して、一冊を深く読むことも期待したい。

## 10 グローバルな活動につながる教育の推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評価	総合評価	
①国際社会の中で主体的に生きる能力や課題を解決する力の育成を図る。	評価指標	① ・生徒 96.5% 保護者 88.2% 教職員 100% ・参加延べ人数 262人 ② 1・2年生全員、SDGs 達成についての課題研究に取り組んでいる。その成果は課題研究発表会や研究集録にまとめることになっている。	A B B	(評定) A	昨年度よりは国際交流に関わる生徒の人数は増えているが、さらに多くの生徒が参加出来るような工夫が求められる。 書籍やネット上の知識獲得のみならず、生徒みずからが学校外に出かけたり、インタビューを行う課題研究の取り組みが望まれる。
	活動計画	活動計画の実施状況	(所見) 昨年度より継続しているオンラインでのインドネシア研修や、今年度より始めたオーストラリア語学研修や地球人カレッジ@ Jotoなど、多様な機会を提供することができた。また、今年度は留学生が複数名在籍しており、日常的に英語でコミュニケーションを図ったり、異文化を理解する良い機会となっている。企業研修も久しぶりに実施することができ、まだまだ閉塞感が見られる世の中ではあるが、生徒が様々な活動に参加出来ていることは、非常に喜ばしいことである。		学校関係者の意見
	① ・オンライン会議を活用し、海外の生徒や帰国した留学生との交流を15回以上行う。 ・校内での対面による国際理解・交流イベントを5回以上実施する。 ・HPやニュースレター等を活用し、広報に努める。 ② ・生徒の活動について、定期的に学校のHPで発信する。	① ・オンラインによる研修2回、対面による国際理解・交流イベント6回実施。 ・フランス研修の様子をHPに適宜更新することができた。またニュースレターを発行し、多目的ホール前に掲示した。 ② 3年ぶりに1年生は企業研修を実施し、上勝町におけるSDGs取り組みをポスターセッションにて発表した。活動の様子は迅速なHP更新で発信している。			コロナ禍ではあるが、複数の留学生の受入、フランス姉妹校主催のNYLSや哲学の授業への参加など、対面・オンラインともに交流活動が充実している。今後はコロナによる制限の縮小が予想されるので、対面による活動が一層増えることを期待する。

## 11 開かれた学校づくりの推進

重点目標	評価指標 (と活動計画)	評価			次年度への課題と今後の改善方策
		評価指標による達成度	評価	総合評価	
	評価指標	評価指標による達成度	評価	総合評価	

①教育活動の積極的な公開を推進する。 ②ホームページ等を利用しての積極的な情報発信を推進する。 ③地域社会、PTA、同窓会との連携を図る。	① 公開授業を実施する。 ② ホームページが学校の情報を得たり、学校の活動を理解するのに役立っている割合（利用の保護者対象）85%以上 ③-1 地域住民、PTA及び同窓会関係者を委員とする学校運営協議会の開催回数3回 ③-2 中学生及びその保護者を対象とした学校説明会の開催回数 2回	① 公開授業を1回実施 ② 保護者 72.9% (昨年度 82.5%) ③-1 学校運営協議会の開催 3回 ③-2 学校説明会の開催 2回	B C B B	(評定) B	次年度は公開授業、学校祭等の公開をコロナ前の状態に戻すことを含めて検討する時期と考えている。11月の公開授業は、高文祭、部活動の試合等と重なり公欠者が多くいたため、実施時期を検討する。 HPの満足度が、昨年度より10ポイント程度下がっている。保護者へ多くの情報をClassiで提供している状況の中、HPの依存度も下がっているのかもしれない。学校行事等、学校の状況を詳細に発信する魅力あるHPづくりに努める。
	<b>活動計画</b> ① ・休日の授業公開日を年2回実施する。 ・中学校、大学、学校評議員、保護者等への広報を充実させる。 ② ホームページを見やすく、使いやすいものになるよう改善に努める。 ③-1 学校運営協議会を年3回（7月、12月、3月）開催する。 ③-2 学校説明会を休日に複数回実施し、中学生や保護者が参加しやすいようにする。また、中学校への案内や広報の方法を工夫し、参加者を増やす。	<b>活動計画の実施状況</b> ① 新型コロナウイルスの感染状況を考慮して、PTA総会時の公開授業が実施できなかった。 ② HPの更新を推進し、更新回数は188回。アクセス回数は約96万回であった。(R5.1.16現在) ③ 体験入学を8月に実施。参加人数は500人。学校説明会は、9・10月に実施。参加人数は合わせて400人であった。	(所見) 新型コロナウイルスの影響でPTA総会時の公開授業が実施できなかったこと、学校祭が3年生の保護者のみの公開になったことは残念であった。 本年度、初めて学校運営協議会を立ち上げ、運営委員の方々から貴重な御意見を多く頂いた。次年度の教育活動に反映したい。	学校関係者の意見 ホームページによる積極的な情報発信を継続していただきたい。また、地域社会との連携をさらに深め、フィールドワークや近隣中学校との交流活動など、生徒が校外に出る取組をしてはどうか。	

## 12 持続可能で信頼される学校づくりの推進

重点目標	評価指標（と活動計画）	評価			次年度への課題と今後の改善方針
		評価指標による達成度	評定	総合評価	
①校務運営体制の効率化と充実を図る。 ②教職員のコンプライアンス意識の高揚を図る。 ③校内外の研修を通じて指導力の向上を図る	<b>評価指標</b> ①-1 城東高校への満足度 85%以上 ①-2 教員の職務の満足度 90%以上 ② 常にコンプライアンス意識を持って勤務している割合 100% ③ 校外での授業力向上に向けた研修参加人数 5名以上	①-1 生徒 90.2% 保護者 94.4% ①-2 教職員 98.3% ② 教職員 100% ③ 「チーム学校いじめ防止アップ研修」「教育課程研究集会」等に参加。15名以上	B B A A	(評定) A	生徒や保護者の満足度として、高い評価を得ているが、個別最適な学び・協働的な学びを充実させていくための情報共有や研修の機会を増やしていく必要がある。 個々の教職員の能力や特性を的確に把握し、業務分担することで、生徒・保護者のニーズや地域の期待に応えるとともに、発展的・効率的に学校運営を進めていく。
	<b>活動計画</b> ①-1 学校教育活動及び部活動の充実 ①-2 業務改善の推進 ② 職員全体でのコンプライアンス研修会を3回以上実施し、コンプライアンス意識の向上を図る。 ③ 県教委計画訪問等も含め、教員研修・研究授業を計画的に配置し、各教科1回以上ICTを用いた研究授業を行う。 ・外部機関等の授業力向上研修に参加する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 生徒や保護者のニーズに応える教育活動の実施と教職員の個々の能力や特性を活かせる業務配置を行った。 ①-2 職員朝礼の在り方の見直しや生徒の完全下校時間の徹底等で、働き方改革につなげた。 ②職員会議や職員朝礼の機会を捉えて23回実施するとともに、タブレットを利用したアンケート方式での研修も実施し、コンプライアンス意識の向上を図った。 ③県教委計画訪問や11月のGIGAスクール月間等も含め、各教科	(所見) コロナ禍の中、徐々に活動制限が緩和され、以前のような活発な活動に戻りつつある。次年度は、コロナ禍において創意工夫した活動様式をより発展・充実させていく必要がある。 時宜を捉えた研修は実施できたが、引き続き、自分事としてのコンプライアンス意識の維持・向上を図っていく。 ICTを用いた授業もかなり充実してきたが、より効果的な授業展開ができる	学校関係者の意見 生徒・保護者ともに満足度が高く評価できる。校務運営体制の効率化をさらに進めて研修の時間を確保し、生徒一人一人の学力や適性、興味・関心に応じた教育活動を一層充実させていきたい。	

		2回以上ICTを用いた研究授業・公開授業を行った。また、コロナ禍によりオンライン研修の機会が増えたため、外部研修への参加も増えた。	ような取り組みが必要である。
--	--	---	----------------